

「4. 都道府県透析医会連合会と 昭和56年の診療報酬改定」

山崎親雄

昭和53年2月に診療報酬が改定されました。この改定は、それまで透析医療普及のためにかなり高額であった医療費が、次の昭和56年の改定とセットで、大幅な抑制の始まりとされています。この後も患者数の増加が続くことから、引き続きマイナス改定が行われることが容易に推測されました。そこで、これに危機を感じた民間施設を営む医師が、良質な透析を提供することと、経営の安定のために、次回の改定に向かって透析医会を立ち上げようとしたのも当然のことと思われます。したがって、昭和54年に設立された都道府県透析医会連合会（以下連合会）の主たる活動目標は、次回の改定への専門家としての関与でした。振り返ってみますと、連合会の時から今に至るまでに、これほど幅広く積極的に診療報酬改定に取り組んだことはなかったのではと考えています。

さっそく昭和53年10月（実際にはまだ連合会すらできていない時期です）には、保険局医療課に対して、次期改定に対する以下のような申し入れをしています。

ダイアライザの分類と公定償還価格の設定/技術料28,000円/ROを用いた水処理1,000円/回……など。

その後は連合会設立と組織作りに専念していたと思われ、改定に対する動きを示す書類は見つかっていません。

さて改定に対する具体的な活動は、昭和56年2月の中医協での、日本医師会保険担当理事の発言がきっかけでした。その内容は以下の通りです。

「無形技術の評価がいかに無視されたかという証拠は外科手術料の50%余りが腎透析に投入されていることである。これは新しい技術とそれが普及した場合の技術評価を全く分離して考えていなかったことのしわ寄せがこのような形になったのである。」とし、「今回の改定では日本医師会としてはかなり進歩的な改革案を出すつもりである。」と提案しました。朝日新聞は「これは暗に腎臓透析の料金を大幅に引き下げよう求めている」と報道しました。これに対して連合会が、担当理事および当時の武見太郎医師会長あてに反論の文書を送ったことは当然のことです。

ところで先に、改定に対する幅広い対応と記しましたが、その理由は、この改定対応のために、透析に関連する他の組織への働きかけが理事会で決議され、実際には、①日本人工臓器学会（渥美和彦理事長）、②日本人工臓器工業会（村松健会長）、③全国腎臓病連絡協議会（上田昭会長）、④人工透析研究会（木本誠二会長）から、昭和56年3月付けで、改定に対する要望書が、保険局医療課、日本医師会などへ提出された

ことによります。

連合会は、最終的には、5月7日付で、以下の陳情書をもって交渉を行いました。

- ① 技術料ダウン幅は10%以内
- ② 急性腎不全および導入期（4週間）の技術料50%アップ
夜間透析技術料の30%アップ
休日・祭日透析の50%アップ
- ③ ROを用いた水処理費用100点/回
- ④ 腎不全治療の将来計画を早期に作成し、その目的に沿った継続的な指導を希望する。

結果的には、昭和56年6月の診療報酬改定では、ダイアライザと技術料を分離するとともに、中医協の場で日本医師会代表委員が述べた「透析は今やすでに普及した医療技術」であるという見解にそって、25%以上の透析医療費の切り下げと、手術料から処置料への分類見直しが行われました。夜間透析点数のアップ、食事点数やダイアライザの滅菌加算新設などもありましたが、すべての要望はほとんど無視されたということになります。

他組織も巻き込んだ改定対応でしたが、大幅切り下げという結果は、連合会の無力さを痛感するとともに、より大きな影響力を有するために、透析医会としての法人化への動きへと向かいました。

昭和57年4月に発行された「透析医会ニュース」の編集後記で、当時の安田文二編集委員は、「今、透析医会活動にとって必要なものは“運動論”であり、秀でた指導者とそれを支える優れた頭脳である。愛知県透析医会は、何の方法論も持たずに、昭和53年に日本透析医会設立を呼び掛けた、突出した行動を起こすエネルギーと危機感を持っていたものの、それを持続させる方法論を持たなかった。今や、選手交代の時期に来ている。昭和57年4月18日の総会は、連合会にとって大きな転機となるだろう。事務局の中央への移転を含めて、多くの先生の知恵と力をお借りしたい。」と記しておられます。

最終的に日本透析医会（法人化はもう少し先になりますが）は改組され、その活動目標は単に診療報酬改定対応にとどまらず、地域的情報ネットワークの開発、CAPDを含む家庭治療システムの確立、地域的腎移植システムの確立と推進、補助治療法の進歩発展、腎不全進展予防医学の確立、患者自力更生意欲の高揚支援……などとされました。

日本透析医会名誉会長/増子クリニック 昴